

## 住民説明会質疑応答概要

### ■ 今後の説明会の予定について

今後の説明会の予定について	江東区における説明会の開催は、今回限りです。 3月から受け入れるということ、日程的に会場の確保が難しかったこと、また区報による周知も必要であることから、今回は1回とさせていただきます。
---------------	---

### ■ 協定について

基本合意の中身について	「特別区長会、宮城県女川町、東京都及び宮城県は、宮城県女川町において発生した、東日本大震災により特に処理することが必要となった一般廃棄物（以下「災害廃棄物」という。）のうち広域的に処理することが必要かつ可能である災害廃棄物について、当該災害廃棄物が特別区で組織する東京二十三区清掃一部事務組合の清掃工場において円滑に処理されるよう相互に協力することを合意する。」という内容で、昨年11月24日に四者合意の署名があります。
操業協定について	安全対策は十分とられていると考えますので、改めて協定を結びなおすような考えは現在持っていません。

### ■ 女川町での試験焼却に関すること

試験焼却はいつのデータなのか	平成23年9月8日に実施したものです。
----------------	---------------------

### ■ 女川町からの受け入れに関すること

女川町に決めた理由について	被害のあった3県のうち、福島県は国が責任をもって処理し、他の自治体は、岩手県と宮城県が自ら処理できない分を広域処理する仕組みになっています。 宮城県では1,500万トンほどの災害廃棄物が発生しています。女川町は、敷地面積の
---------------	--

	<p>14%しか平地がなく、ここに災害廃棄物を仮置きしているため、災害廃棄物の処理なくして復興ができません。宮城県と女川町の要請があり、女川町の約10万トンの木くず等の可燃性災害廃棄物を受け入れることになりました。</p>
<p>連続した受け入れの単位について</p>	<p>3月から8月までに稼働中の19工場すべてで受け入れる予定です。受入量は通常の可燃ごみに対して10%以下です。1日平均150tの受け入れを予定しています。</p> <p>また、最初2週間は連続して受け入れ、環境、大気の測定を行います。予定については週単位と月単位の計画を清掃一組のホームページで公表していきます。</p>

■ 輸送ルートに関すること

<p>陸上輸送を選んだ理由について</p>	<p>海上輸送のコンテナは気密性の高いコンテナが作られていないことや、陸上輸送はタイヤがきちんと決まっているため、まだ整備されていない東北の湾岸を使用した海上輸送より効率的に輸送できることで選択いたしました。</p>
<p>陸上輸送のルートはすべて決まっているのか</p>	<p>品川にある東京貨物ターミナル駅から、基本的には首都高を通過して最短のルートを使用します。(現在のところ東京ゲートブリッジは通りません。)</p>
<p>放射能濃度の高い焼却灰等が出た場合、災害廃棄物がいつ現地から搬出されたものであるか追跡できるのか</p>	<p>女川町で放射線量率の測定をしています。</p>

■ 清掃工場での焼却に関すること

<p>バグフィルターの性能について</p>	<p>大田、品川清掃工場ともに排ガスの放射能濃度は不検出でした。</p> <p>新江東清掃工場のろ過式集じん器には、筒状のバグフィルターが1,600本ほど入った部屋が14室あり、個々にばいじんを除去する性能になっています。材質はガラス繊維とテ</p>
-----------------------	---

	フロン（PTFE）で、1マイクロメートル以上のものはバグフィルターで確実に捕集できます。
バグフィルターの破損の可能性について	仮に破損があったとしても、その部屋は閉鎖できます。また、ばいじん計を設置して常時監視していますので、万が一破損のあった場合には、速やかに対応します。
建屋から放射性物質が漏れ出る可能性について	清掃工場の敷地境界で週に1回測定しており、周囲の環境と変化がないことを確認しています。
フィルターの処理の方法について	基本的にバグフィルターに付着した灰は払い落とすため、バグフィルターの放射能濃度が上がることは考えられず、そのまま使用していきます。また、毎年定期点検補修工事の中でバグフィルターの劣化を調査し、おおむね5年に1回バグフィルターを交換します。処分については今までどおり自工場で焼却処分を行います。

■ 測定に関すること

敷地境界とはどこか	各施設によって敷地の面積は異なりますが、新江東清掃工場の場合は、東西南北約500mの所です。
女川町での測定について	選別エリアでは、作業1時間ごとに空間放射線量率を測定します。また、コンテナごとにサンプリングした廃棄物と計測器を、内側に鉛を貼った箱に入れ、測定します。出発前にもコンテナの両側面の空間放射線量率を測り、高い値が出れば搬出しません。
排ガスの測定サンプル数について	清掃一組では、これまで排ガスの放射能を100検体以上測定し、すべて不検出という結果になっています。
測定の継続について	昨年2回にわたって区の施設で1,053か所、測定地点で4,411か所の空間放射線量率を測定しました。24年度も、清掃工場、下水道局のスラッジプラントの北側の小中学校を

	<p>中心に継続する予定です。</p> <p>また、新江東清掃工場の北側の小中学校9校で2か月に1回、土壌中の放射能を測定し、継続的な放射能の移動を調べており、24年度も継続する予定です。</p>
新たなモニタリング・測定ポイントの設定を予定しているか	<p>昨年5月から下水道汚泥焼却灰や水道スラッジの放射能濃度が高くなったため、5月下旬からの空間放射線量率を測定をし、都環境局のホームページに公開しています。現在では、数値は落ち着いてきました。この数値を見ながら、セシウムが土に吸着しやすい性質を利用して覆土等行いながら管理しています。</p> <p>また女川町からの搬出時にも測定を3回行い、全体の中できめ細やかな測定を行っておりますので、新たな測定を追加する考えはありません。</p>
区内の放射線量の測定に関して	<p>区内全域の各施設・小学校・中学校・保育園等でかなりきめ細かく土壌調査等行っておりますので、測定地点を特別増やす考えはありません。</p>
工場の周りの測定について	<p>有明の学校等施設等42地点で測定しています。新江東清掃工場は夢の島にあるため調査地点はありませんが、近隣の新砂で100地点、新木場で10地点、若洲で24地点あり、十分な測定地点を確保しています。</p>
測定頻度と公表について	<p>空間放射線量率については清掃工場の敷地境界の東西南北4地点と、灰処理設備等から最も離れた地点の計5か所を週1回、排ガスについては各炉とも月1回、飛灰及び飛灰処理汚泥については2週間に1回測定しています。公表は、2週間に1回行っています。また、ばいじん計については従来から常時監視しています。</p>

■ 体制等に関すること

全体の放射能のデータを把握するため、東京都・江東区・一組のホームページを一元管理する体制を構築してほしい	貴重な意見として参考にします。
公害などで裁判になったときの責任主体について	東京都が5月下旬に東京緊急対策 2011 で災害廃棄物を3年間で50万トン受け入れるとし、6月には補正予算を提出し、全会一致で了解を得ています。東京都としては行政、議会ともに受入れ方針を出し、全体的な連絡調整もしているので、仮に災害廃棄物の受入れが原因で都民に健康被害が起きたと立証されれば責任は東京都にあります。
受け入れが25年3月までということだが、期間に変更があった場合について	今のところ25年3月までと考えておりますが、宮城県等から別途要請等あれば、また行政間で調整・協議を図りながら進め、住民の皆様にもお知らせしていく考えです。

■ 放射線量が上がったときの対応等に関すること

空間放射線量率が上がったときの停止マニュアルについて	現在、排ガスからは放射能は不検出となっておりますが、万が一検出された場合は焼却炉を速やかに停止し、調査をします。
1キログラムあたり8,000ベクレルを超えてしまったときの対応について	飛灰処理汚泥の放射能濃度が1キログラムあたり8,000ベクレルを超えた場合は、災害廃棄物の受け入れを一時停止します。

■ アスベスト対策に関すること

現地でのアスベスト対策について	仮置場において手作業で取り除いた後、選別処理施設で回転式ふるい機を使って土砂等を取り除き、さらに手選別ラインで手作業によりアスベストを取り除きます。
清掃工場のアスベスト対策について	現地からコンテナで密閉された状態で持ち込み、ごみバンカに直接投入します。ごみバンカは中から外気を引っ張る構造になっており、万が一アスベストが含まれていても、外に出ることはありません。また、万が一焼却炉の中に入ったとしても、バグフィルターでの捕集が可能です。

	<p>また、焼却試験の評価書のとおり、その他の物質についても測定を行っています。今後も確実に管理していきます。</p>
--	---

■ 埋立地に関すること

<p>埋立処分場について</p>	<p>水道スラッジ、焼却灰、飛灰、主灰の埋立場所は完全に分離しております。</p> <p>また、現在処分場内の空間放射線量率、排水処理場の放射能濃度については継続して8か月以上測定していますが、今後も測定を続け、長期的な管理をしていきます。</p> <p>埋立処分場は、住居以外ではありますが、将来的には土地の利用があるので、支障をきたさないように技術的な措置を検討していきます。</p>
------------------	--